



## 神戸薬科大学

## 図書館ニュース

No.40 2009. 4



## Part 1 (新着資料から)

## 〈BOOK〉『ヘルマン・ヘッセ全集』(全16巻)

(臨川書店 2007)

ヘルマン・ヘッセと聞くと、『車輪の下』を思い浮かべて、あれは子供のための文学だと思いませんか？ ところがそうではありません。ヘッセは、自分が受けた教育を振り返りつつ、ヨーロッパ、特にドイツの19世紀的なものの捉え方に疑問を呈していたのです。ヘッセの個人的な問題意識は、時代の意識とピッタリ寄り添うようにして展開していきます。最初の長編小説『ペーター・カーメンツィント』は、父性的な時代に生きた主人公が大人になるまでの体験を描いたもので、その中には『車輪の下』と似た場面があります。中期の『デーミアン』で、主人公は、父性中心主義の行き詰まりから生まれた弊害を克服するために、父性と母性を統一

した両性具有的な神性アブラクサスを目指しますが、行き着いたところは極めて母性的なエヴァ夫人に象徴される太地母神の世界でした。そして後期の作品、たとえば『シッダルタ』などでも、両性具有的なもの、ないし母性的なものが描かれています。ヘッセは、そこにヨーロッパ文明の再生の希望を見ていたのでしょう。今回出版された全集は、すべて新たに訳出されたもので、2008年度「第44回日本翻訳出版文化賞」を受賞しました。筆者も第3巻の編集と翻訳を担当しました。ヘッセを読んだことのある人も、もう一度読み直してみませんか？ きっと、新しい発見があるはずですよ。

春山 清純 記

## 〈BOOK〉『病態生理に基づく臨床薬理学—ハーバード大学テキスト』

(メディカルサイエンスインターナショナル 2006)

最近、医学・薬学・看護学などの医療系分野で、PBL (Problem-based learning) という学習法が注目されています。これまでの縦割り型、科目別の授業ではなく、具体的な患者の事例を通してその問題点を抽出し、基礎から臨床まで統合的に学習を進める手法です。単なる知識の詰め込みではなく、なぜその知識が必要なのか、ここで学んだ基礎的な知識がどのように臨床に結び付くのかを知ることができ、学習意欲の向上や知識の定着、臨床実践力の養成が期待できます。

この書籍は、ハーバード大学医学部の学生と教員が共同で執筆・編集した薬理学の教科書です。しかし、その内容は薬理学にとどまりません。まず、各章の最初に症例を提示し、

その問題点を解決するために必要な生理学、生化学、病態生理学の知識が示され、さらに薬物の作用機序と臨床治療が詳細に解説されています。このような構成によって、病態から治療に至る考え方を具体的にイメージすることが可能となっています。

900ページにも及ぶ大著であり、医学生向けの内容ということで、ややハードルは高いと思います。しかし、自分の興味がある分野だけでもじっくり読んでみると、これまで断片的にしか理解していなかった様々な知識が、実は一連のつながりを持っていることに気づくのではないかと思います。

水野 成人 記

## もくじ C O N T E N T S

ブックガイド (新着資料から) 春山清純・水野成人	1	「今日の診療」イントラネット版利用のすすめ	7
ブックガイド part2 (専門分野別) 斎藤博幸	2	薬剤師のためのDI資料 (23) 長嶺幸子	8
医療薬学系の雑誌	3	2009年度学術雑誌について	8
受入図書から	4~5	お知らせ	8
グラフと表で見る図書館統計	6~7		


 part 2 (専門分野別)  
 BOOK GUIDE

## “物理化学の本”

 齋藤 博幸  
 (薬品物理化学研究室 教授)


物理化学は、量子力学、熱力学、統計力学の三つの理論を基礎として、物質の構造、状態、変化の三分野にわたって化学の法則や理論を取り扱う。すなわち物理化学は、化学のものになっている原理を物理的な概念によって説明し、法則や原理を実際の問題にいかに関し解決できるかの方法論を示してくれるという点で、薬学のみならずあらゆる分野の基本となる学問といえる。特に薬学において物理化学が必要とされる分野には、医薬品などの物質の性質を物理的な観点から理解する一般物理化学のほか、生体や生命における現象を物理化学的立場に基づいて説明、解明しようとする生物(生命)物理化学、医薬品製剤の開発、製造過程において基盤的知識となる製剤物理化学などがあげられる。

私が学生時代の物理化学の教科書といえばG.M. Barrow著「バーロー物理化学」(東京化学同人)であった。上・下の2巻に分かれており、高価なため古本屋で購入したことを記憶している。当時は第3版であったが、現在でも第6版が発行されている。しかし、最近の標準的な物理化学の教科書といえばやはり、P.W. Atkins著「アトキンス物理化学」(東京化学同人)であろう。初版が1978年に刊行されて以来版を重ね、現在第8版に至っている。基本的な内容から細かな点に至るまで正確に分かりやすく記述されており、多くの図表や豊富な例題が盛り込まれているなど、独習にも適した教科書となっている。しかし上・下2巻で約1000ページと分量が多いため、なかなか初心者にはとつきにくい。そのため、「アトキンス物理化学要論」(東京化学同人)が入門書的に用意されており、まず手にするにはこちらの方が良いであろう。また、より生命科学を意識した物理化学の教科書として、R. Chang著「生命科学系のための物理化学」(東京化学同人)やP.W. Atkins, J. de Paula著「アトキンス生命科学のための物理化学」(東京化学同人)などを勧めておきたい。

薬学は非常に広範な分野にわたるため、薬学部の学生が物理化学を本格的に勉強する機会はありません、本学の学生に

とって上記のような標準的な物理化学の教科書を目にすることはむしろまれであろう。本学での講義テキストとして用いられている「ベーシック薬学教科書シリーズ」(化学同人)や「スタンダード薬学シリーズ」(東京化学同人)など、現在では薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した数多くの教科書が用意されている。しかしいずれも一長一短があり、この本で勉強すれば良いという薬学生にとってベストな教科書は見あたらないのが現状である。むしろ少し古い教科書ではあるが、桐野豊編集「生命薬学テキストシリーズ 物理化学(上・下)」(共立出版)や大島広行、半田哲郎編集「物性物理化学」(南江堂)などが、物理化学的なものの見方を養うために基礎からしっかり書かれたテキストとなっている。また、少し毛色は異なるが、早川勝光ら著「ライフサイエンス系の基礎物理化学」(三共出版)は、生命現象を理解する道具としての物理化学の原理が平易に説明されており、一読の価値のある教科書である。私の研究室においても、学部学生のための勉強会のテキストとして用いている。

本学の学生に限らず、多くの薬学部の学生にとって数式が多用される物理化学は苦手科目であろう。しかし最近では、佐藤博保著「なっとくする物理化学」(講談社)や齋藤勝裕著「絶対わかる物理化学」(講談社サイエンティフィック)など、なるべく数式を使わずにわかりやすく書かれた物理化学のテキストも多く出版されている。また、小出力著「読み物熱力学」(裳華房)、齋藤勝裕著「分子膜ってなんだろう」(裳華房)、平澤猛男著「水と油のはなし」(技報堂出版)、永山國昭編集「水と生命」(共立出版)など、物理化学に関連する分野について読み物的に書かれた本を読んでみると、物理化学がさまざまな分野で重要であることが実感できるのではないかと思う。最後に、自習のための物理化学演習書として、三輪嘉尚、青木宏光著「バザバ薬学演習シリーズ2物理化学演習」(京都廣川書店)を勧めておきたい。

## 医療薬学系の雑誌

今回は図書館で購入している医療薬学系の雑誌を紹介します。

### ◆日経メディカル (Nikkei Medical)

臨床医のための総合医療情報誌。1972年創刊。出版は日経BP社。  
編集方針には、「最新の臨床情報・医学研究情報や医療行政情報など、医療界の動向をいち早く、的確にお伝えすると同時に、臨床知識を整理し、日々の診療に役立つ情報をタイムリーにお届けします。」とあります。薬剤師（薬学生）としては、特集記事やトレンドビュー記事と、写真入りの臨床例と適用治療法の解説などの利用価値が高いでしょう。広告が多いのがやや難。  
(所在：4階閲覧室)



### ◆日経ドラッグインフォメーション (Nikkei Drug Information)

1998年創刊。出版は日経BP社。薬局に勤務している薬剤師を対象に、日々発生する医薬品の最新情報および、調剤や服薬指導に関する実践例や、薬局のマネジメントに関する情報を掲載。服薬指導例の「日経DIクイズ」、調剤基本料関連の「保険塾」、質疑応答的な「薬局なんでも相談室」等の記事が参考になりそうです。  
(所在：4階閲覧室)



### ◆MMJ (The Mainichi Medical Journal)

JAMA: The Journal of the American Medical Association 日本版が2004年に廃刊となったのを受けて、毎日新聞社が2005年からライセンスを取得、刊行しています。独自の編集委員会を持ち、臨床系のBMJ, JAMA, Lancet, NEJM, Nature などからトピックスを拾って、その内容を要約・紹介しています。近年の臨床研究を論文形式で記載し、アブストラクトの形態なので要点をつかみやすいのと、広告が比較的少なく読み易いのがお勧めです。  
(所在：4階閲覧室)



### ◆レシピ (the journal of Recipe)

南山堂より2002年から年4回刊行される季刊誌。実際に調剤等の現場業務に関わっている薬剤師へ向けて、特集テーマごとに、症例、処方解析、薬剤の適正使用や保険点数（調剤報酬）などについて、横断的に情報収集ができるように構成されています。「次世代で活躍するための薬剤師トレーニングマガジン」というだけあって、処方せん鑑査・疑義照会のノウハウが掲載されており、大学、薬剤師会や製薬会社の社員がスタッフとして編集に協力しています。  
(所在：4階閲覧室)



### ◆ファームテクジャパン (PHARM TECH JAPAN)

株式会社じほうから1984年に刊行されました。製剤技術と品質管理の専門情報誌。本誌は、有効かつ安全で高品質の薬剤を創製するために製剤開発、処方設計、包装設計、製造工程開発、品質管理という医薬品の開発から製造までの製剤技術をテーマにとりあげています。製造・製剤研究のヒントが多く掲載されています。  
(所在：3階新着和雑誌)



書名	著(編)者名	出版社
カガクニュースの基礎知識	重里学園日本分析化学専門学校	化学同人
科学者・技術者のための英語プレゼンテーション	Robert M. Lewis	東京化学同人
一緒に楽しむための数学	日本大学文理学部数学教室	日本評論社
はじめての分子軌道法	友田修司	講談社
有機合成のための遷移金属触媒反応	辻二郎	東京化学同人
有機典型元素化学	秋葉欣哉	講談社
MicroRNA実験プロトコール	Shao-Yao Ying	羊土社
DNAでたどる日本人10万年の旅	崎谷満	昭和堂
外来診療コミュニケーションが劇的に上手くなる方法	岸本暢将他	羊土社
がん患者の心の扉を開くコミュニケーション術	高瀬久光	南江堂
悪夢の医療史	W.ラフルーア他	勁草書房
誰でも書ける英文報告書・英語論文	馬屋原宏	薬事日報社
漢方の目で健康を考える	森山健三	医歯薬出版
パートナー機能形態学	高野行夫他	南江堂
抗体実験マニュアル	高津聖志他	羊土社
はじめての薬物速度論	加藤基浩	南山堂
店頭で早わかり!OTC医薬品副作用ハンドブック	日本OTC医薬品協会安全性委員会安全性情報部	じほう
わかりやすい免疫学	市川厚他	廣川書店
コメディカルのための静脈経腸栄養ハンドブック	日本静脈経腸栄養学会	南江堂
実践ファーマシューティカルコミュニケーション	井手口直子監修・執筆	日経BP社
45疾患の薬学管理チェックシート	木村健	じほう
緩和ケアチームの立ち上げとマネジメント	後明郁男	南山堂
精神科医はなぜ心を病むのか	西城有朋	PHP研究所
向精神薬がわかる!使える!答えられる!	吉尾隆	南江堂
薬剤師による手術室の薬剤管理マニュアル	島崎博士他	じほう
患者中心のがん医療ガイド	瀬戸山修	日本評論社
薬疹のすべて	池沢善郎他	南江堂
エキス剤を用いた皮膚病漢方診療	三田哲郎	医歯薬出版
外科研修医(レジデント)熱き混沌(カオス)	CRAIG A.MILLER	医歯薬出版
女性とくすりQ&A	上野光一他監修	じほう
最新生殖医療	菅沼信彦	名古屋大学出版会
医師の主張	唐沢祥人	毎日新聞社
スキルアップのためのサプリ・トーク相談Q&A	静岡県薬剤師会	南山堂
ヘルスコミュニケーション実践ガイド	米国立がん研究所	日本評論社
メディカルツーリズム	ジョセフ・ウッドマン	医薬経済社
医療イノベーションとくすり	日本薬学会	丸善プラネット
モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい薬局実務実習テキスト	実務実習テキスト作成研究会	じほう
薬局ですぐ使える接遇・英会話・手話マナーブック	保険薬局薬剤師OJT研究会企画・編集	じほう
薬剤師生涯研修ガイド	内山充他	薬ゼミ情報教育センター
新しい医薬品管理	加賀谷肇他	じほう
ヒヤリ・ハットにさようなら!早わかり薬の知識	守安洋子	メディカ出版
新薬誕生	ロバート・L. シュック	ダイヤモンド社
OTC医薬品の基礎知識	じほう	じほう
実践処方例とその解説	井尻好雄 他	じほう
患者とくすりがみえる薬局薬物動態学	松澤忍他	南山堂
プロセス化学	Neal G.Anderson	丸善
CRCとCRAのためのEDCガイドブック	日本病院薬剤師会監修	メディカ出版
軟カプセルは生きている	山田達	薬事日報社
現代医療における漢方薬	日本生薬学会監修	南江堂
社会薬学への招待	長嶺幸子	法律文化社

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

## 『乳がんの女医が贈る 乳がんが再発した人の明るい処方箋』

小倉 恒子著 主婦の友社

乳がんが再発、再々発、そして全身転移に至った現役の女医さんの明るい闘病記であるが、放射線療法やホルモン療法、化学療法など、発症から現在までに実際に受けた治療の内容や副作用が、医師の視点から詳しく書かれている。パニックに陥ったときの緊急脱出法も含めて、抗がん剤の力を借りて、「がんと共存」しながら、生きていく方法も紹介している。また、女性が気になる抗がん剤による色素沈着をカバーするためのおしゃれメイクも写真で紹介している。(T)



## 『くすりの夜明け～近代の薬品と看護から』

石坂 哲夫：監修 内藤記念くすり博物館

現代の医薬について理解を深める上で、先人たちが努力の積み重ねて如何に医薬品を創製してきたかを知ることは大切です。本書は、近代に創製された医薬品や医療技術の他、医療器具をはじめ、衛生に関する資料、家庭看護に用いられた器具などを歴史的に貴重な写真や図をまじえて紹介しています。自然界に存在するものを加工して使ってきた時代から人間が化学的に作り出した時代へ…いま改めて歴史から学ぶこともあるのではないのでしょうか。(T)



## 『医師の死角・患者の死角』

西寺 桂子著 現代医学出版

薬学教育6年制に伴い、医療チームの一員である薬剤師は医療人として患者や医師、看護師などとの円滑なコミュニケーション能力を養う必要がありますが、忘れてはならないことは、医療の中心に患者が存在しているということです。この本は、患者と医師との医療関係を豊かにするための相互協力について述べられています。病院・薬局薬剤師を目指す方の一読をお勧めします。そして、患者側の立場になって読んでみるのもいかがでしょうか。(M)



## 『容疑者Xの献身』

東野 圭吾著 文藝春秋

昨年には映画化された作品です。物語は「数学」や「物理学」がからめられています。専門的なことを知らなくても楽しめ、これらが物語にさらなる深みを与えています。物語の最後に明かされるトリックは予想もつかないものでミステリー小説としてはとても面白い作品だと思います。しかし、登場人物の考え、心情に納得できない点がいくつかあるので、あくまでミステリー小説として楽しむ方にオススメしたい作品です。(R)



## 『普通の家族がいちばん怖い：徹底調査！破滅する日本の食卓』

岩村 暢子著 新潮社

『普通』とは、『家族』とは？現代日本が問われている問題を、食を通して紹介。「写真・日記調査」対象者は、首都圏在住の子供を持つ主婦223人。日本の一部分での実態調査ではあるが、その現実の一端を見せられどう思うか？何も思わない？それはもう『怖さ』にどっぷり浸かっている証拠ではないだろうか？自分の中の『普通』を、もう一度確認してみよう。(K)



## 『ゴールデンスランバー』

伊坂 幸太郎著 新潮社

伊坂作品は初めて読みましたが、スピード感とストーリーの展開に圧倒されました。首相暗殺犯に仕立て上げられるという濡れ衣をかぶった主人公の青年が、国家の追跡から逃げまくる逃亡ストーリーです。何気ないエピソードを伏線として利用する技術、登場人物の会話やキャラクターに引き込まれて、あっという間に読み終えてしまいました。500ページと長編ですが、それを感じさせない構成で伊坂ワールドに浸れた1冊でした。(M)



## グラフと表で見る図書館統計

### 1 OPACの利用状況

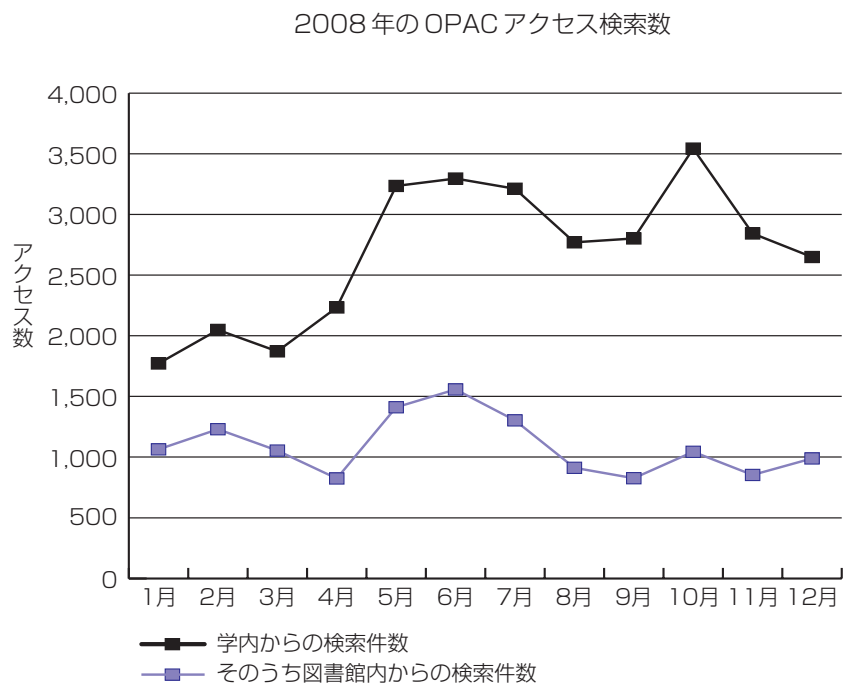
OPACとは、「Online Public Access Catalog」の頭文字を集めたもので図書館の所蔵資料を検索する道具（オンライン蔵書目録）です。

2007年に更新した図書館システムでは、実際にOPACを使って所蔵検索された件数を調べることができるようになりました。今回は、2007年9月から採り始めたデータのうち、2008年分のデータを紹介します。

5～7月と10月が月間3000アクセスを超えて、一日あたり100件近いアクセスがあります。また、その内の図書館内からの利用が約3～4割になっています。

外部アクセスは携帯電話とその他のコンピュータの種別判別がシステム上でできなかったため今回は省いています。

計測した月	学内からの検索件数	そのうち図書館内からの検索件数
1月	1,771	1,063
2月	2,048	1,229
3月	1,871	1,053
4月	2,233	823
5月	3,235	1,410
6月	3,296	1,557
7月	3,212	1,302
8月	2,770	911
9月	2,802	825
10月	3,543	1,043
11月	2,843	852
12月	2,649	988



### 2 入館者数の推移

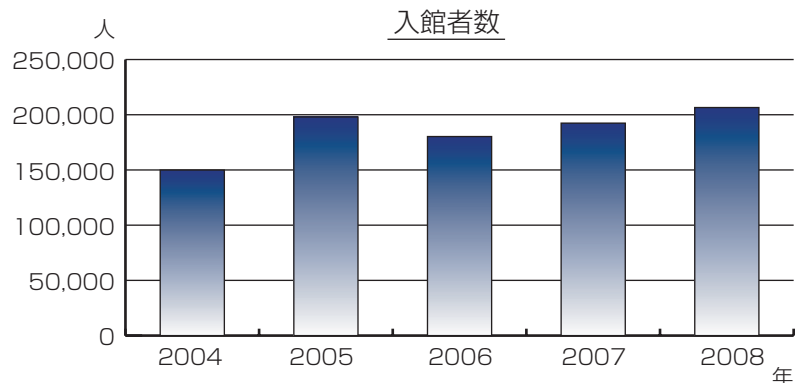
いつもご利用いただきありがとうございます。

図書館に来られる方の月々の利用は以前の図書館ニュースに報告させていただいたり、図書館出入口の掲示板に掲示を出したりしています。

さて、今回は過去5年を遡って、図書館がどのように愛用されているかを示してみました。

全体的には「微増」というところでしょうか。

年	入館者数の合計(人)	開館日の合計(日)	平均入館者数(人/日)
2004	149,909	264	568
2005	197,964	266	744
2006	180,261	261	691
2007	192,408	258	746
2008	206,530	264	783



- ・「年」の期間は1月1日から12月31日までとしています。
- ・「入館者数の合計」は通常の開館時、延長開館時、夜間開館時の合計の事です。
- ・「開館日の合計」は1年間のうち休館日以外を示しています。
- ・「平均入館者数」は「総入館者数の合計」を「開館日の合計」で除したものです。

過去5年間の総入館者数は、927,072人でした。

この統計には館外の「自習室利用者」は含まれていませんが、このように、一日あたりおよそ500人から800人の方に利用されています。

特に、7月の試験期間前には1日1200人を超える利用がありました。

更に利用しやすい図書館に出来ますように皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。



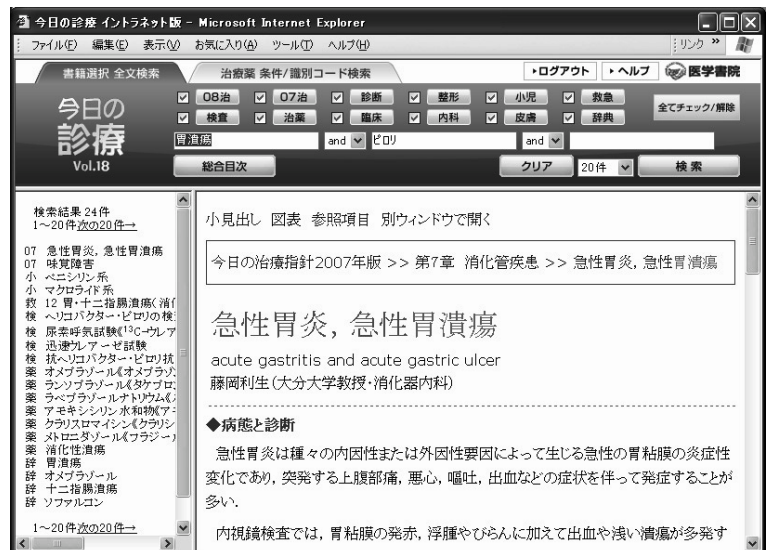
## 「今日の診療Vol.18」イントラネット版利用のすすめ

「今日の診療 Vol.18」は下に示した12冊の医学書院発行書籍のテキスト、図、写真、表を収録しており、医療関係者のための国内最大級のリファレンスデータベースです。これのイントラネット版が学内のコンピュータから利用できるようになっています。病名などを検索窓に入力して検索すると12冊の書籍から約6万解説項目について全文を検索し、病態・診断・治療法・医薬品などが表示されます。下に示した画面上部で辞典のみを選択し、辞典として利用することもできます。

詳細な検索法や主な機能の説明は画面右上のヘルプをクリックすると表示されます。「今日の診療」へのリンクボタンは学生および教職員イントラネットメニュー、あるいは図書館ホームページにあります。また、同時に3ユーザーが利用可能ですが、使用を終了するときは、必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてください。「ログアウト」ボタンをクリックせずにブラウザを終了させると、利用状態が20分間継続します。

診療に関することならインターネット上の検索エンジンによる検索よりも正確且つ豊富な情報が得られますので是非、活用してください。

収録書籍名	略称
(1) 今日の治療指針2008年版	8
(2) 今日の治療指針2007年版	7
(3) 今日の診断指針 第5版	診
(4) 今日の整形外科治療指針 第5版	整
(5) 今日の小児治療指針 第14版	小
(6) 救急マニュアル 第3版	救
(7) 臨床検査データブック2007-2008	検
(8) 治療薬マニュアル2008年版	薬
(9) 新臨床内科学 第8版	新
(10) 内科診断学 第2版	内
(11) 今日の皮膚疾患治療指針 第3版	皮
(12) 医学書院医学大辞典	辞



情報支援室

## 薬剤師のためのDI資料 23

## 『45疾患の薬学管理チェックシート』

木村 健 編著  
じほう 2008

薬剤師の活動の目標は「患者のQOLを向上させる確実な結果を目的とした責任ある薬物治療の提供」というファーマシューティカル・ケアの実践を行うことである。

2008年4月の診療報酬改定で、薬剤師のインテリジェントフィーである薬剤管理指導料や薬剤服用歴管理指導料は大きく改正された。この改正は、近年欧米で導入されつつあるP4P (pay for performance) 制度に近いと言われており、より高い医療パフォーマンスに対しては、より高いフィーをつけるという制度である。即ち薬剤師業務を行った場合、患者の治療に貢献し、患者の持っている問題点を解決した確実な結果を残すことが求められている。

薬の専門家として患者の薬物治療や健康管理に対して薬学的な視点からアプローチできるためには、患者の薬学管理の状況を評価し、解析するポイントを見逃さないことが重要である。

この本では、患者の薬物治療を評価・分析するために、疾患ごとに薬剤師が確認すべき項目を分類したチェックシートが掲載されている。ポイントをおさえた薬学的管理を行えば、患者の問題が明確化でき、問題解決のための計画が立てやすくなっており、又安全かつ効果的な薬物治療を提供した結果を記録として残すことができるようになっている。

長嶺 幸子 記

## 2009年度学術雑誌について

## ● 洋雑誌の新規購読(電子ジャーナルのみ)

Current Opinion in Lipidology  
Gastroenterology  
Nature Medicine

## ● 電子ジャーナルのみに移行

Analytical Biochemistry  
Helvetica Chimica Acta  
Journal of Chromatography A  
Journal of Chromatography B

Natural Product Reports  
Phytochemistry  
Journal of Antibiotics(国内欧文誌)

## ● 洋雑誌の購読中止

Experimental Biology and Medicine

## ● 和雑誌の新規購読

Pharm Tech Japan(ファームテクジャパン)

## お知らせ

- 今年度より「医中誌 Web」を契約しました。
- 一般和雑誌「日経ドラッグインフォメーション」の新規購読を開始しました。
- 学生自習室Ⅰ・Ⅱ(1号館4階)の試験前4週間と試験期間中の休日の開室時間を8:00~20:00に延長しました。
- 「メディカルオンライン」(医学・医療総合サイト)を契約更新しました。
- 図書館システムの「マイライブラリー」の便利な機能を活用してください。ログオン時のユーザIDとパスワードはWeb掲示板等と統一されています。
- 「Springer Online Journal Archive」(Springer社の1996年以前に刊行された817タイトル)を購入しました。
- 4階展示コーナーに「闘病記」の展示を行っています。
- 平成20年度の日本私立学校振興・共済事業団への補助金申請が採択されました。
- 今回の「ブックガイド Part1」で紹介している『ヘルマン・ヘッセ全集』は「日本ヘルマン・ヘッセ友の会/研究会」会員で編集委員を務められた春山先生に御寄稿いただきました。受賞おめでとうございます。

神戸薬科大学図書館ニュース No.40

編集・発行 神戸薬科大学図書館

2009年(平成21年)4月1日発行

神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号(〒658-8558)

TEL (078) 441-7512 FAX (078) 435-2080

URL <http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/~library>